

# 美

(本編第21章より)

所有できないからこそ美は美なのであり、宇宙から美をうばったり、他の人がその美しさを味わうことを邪魔することはできない。

先生が齊の国にいらしたとき、韶の楽をきかれ、感動のあまり三ヶ月の間、肉を食べても味がわからなくなられた。そこでいわれた「まったく予期しなかったね、音楽がここまでゆきつけるとは」と。

【論語】述而篇



四人は心から共感し合った

の財産にすることはないからだ。美をながめ、体験し、感じることはできるが、それを手に入れることはしない。所有できないからこそ美は美なのであり、宇宙から美をうばったり、他の人がその美しさを味わうことを邪魔することはできない。成功は有限であり、美は無尽だ。

老子は言った。「天下の人びとはみな、どのようであれば美しいとされるかを知り、そこに醜いということが生じた」(『道徳経』第二章)

人は美しいものを目にするのを悪夢である。美をめぐり争いはみにくい悪夢である。美によって自分が観察され、浸透されるまま、なにもせず、ただ自然にしていれば、自己を超えた

孔子が体験したのは本当の美だ。孔子は韶の音楽を必要としたわけではないし、それによって生きているわけでもない。ただ、世の中に辱められ傷つけられながらも知を求めようとする自分の心を否定できなかった。孔子はこの音楽との出逢いによって、食欲という本能を超越した。美は自然である。エマーソンは言った。「人の高尚な欲求、すなわち美を愛する心は自然によって満たされる」

美とは異なり、成功は我々の必要性を満たしてくれる。成功は多くのものをあたえてくれるが、美のような感動はあたえてくれない。美とはゴールのないプロセスだ。美とは無為だ。なぜなら美を所有することはできないから。

人は世界のすべてを手に入れることはできない。もしそれが可能だとしても、手に入れたすべ

世界で本当の美を見つけることができるだろう。星空のもとに生まれ、その広大さによって心をはぐくまれた人々は自然を信じ、都市の喧噪やざわめきの中でも自分を見失うことがない。戦争の混乱、革命の無秩序、親しい者の死、またそれによって生じた痛みや悩みなど、苦しみに満ちた日常のただ中にいたとしても、星空はその人のために昔話を語り、心をいやし、痛みを少しずつくれる。そして、すべては短い間のことだと言うだろう。銀河はかがやき、ナイチンゲールは歌い、流星ははしり、月は照らし、星はまたたく。昼間の騒がしさは去って夜は静けさを増し、すべての動きはとまる。潮は満ち引きをくり返し、強風はやんで海はおだやかさを取りもどす。月の光ははじやかな水面でかがやき、水は柳の根元でさざ波を立てる。すべてがおだやかな状態にもどるのは自然の法則だ。このような情景には人がおだやかで強い心を取り戻すための不思議な力がある。「すべては過ぎ去る」というささやきが遠くから聞こえ、一時的な悩みは忘れ去ってしまう。

美は宇宙という鏡にみずからを永遠に映しつづける。もし我々が鏡の一部となるなら、我々もまた美の一部となることができる。いつも花が満開に咲いている庭園を散策しながら、けっしてその花を摘むことはない。天使たちとけんかすることなく一緒に空を翔け、ドラゴンを殺すことなくともに舞う。

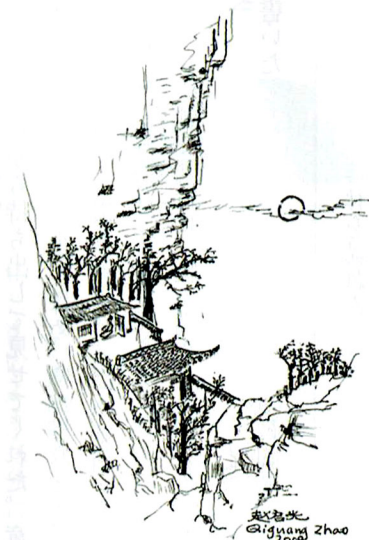
美とは自由だ。世のなかの雑事から自由になり、努力と成功の鎖から自由になることだ。美と成功という二者選択において、荘子が選んだのは美だ。

荘子が濮水という川で魚を釣っていた。楚王



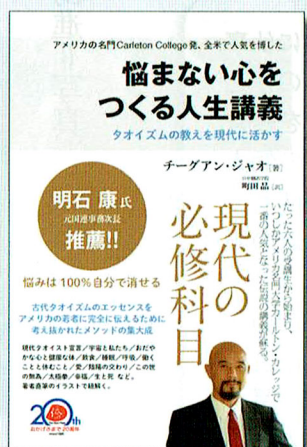
チーグアン・ジャオ 北京出身。カールトン・カレッジ教授、同済大学特別招聘教授、清華大学客員研究員などを歴任。中国社会科学院大学院で英米文学修士号、マサチューセッツ大学で比較文学博士号取得。著作に「A Study of Dragon, East and West」、「Do Nothing & Do Everything」、「古道新理」、「老子的智慧」、「世路心程」、「客舟聽雨」、「コンラッド小説選」など。2015年3月、マイアミでの遊泳中の事故により永眠。ミネソタ州の「スター・トリビューン」紙で「北極オーロラの星」と評価された。

町田晶 日中翻訳学院修了。東北大学文学部東洋日本美術史専攻、東北大学大学院文学研究科中国哲学専攻。学生時代の一人旅で中国文化の奥深さと中国人の温かさに触れたことから本格的に中国語を学ぶ。翻訳得意分野は思想、哲学、文学、食文化等。



はるか上にあつて  
手に入れることができない美しさ

はそこに二人の臣下をやり、楚の国を荘子にまかせたいと伝えさせた。荘子は竿をもったまま、ふりむきもしない。「楚には神亀があるそうだな。三千年も前に死んだものだが、王さまは箱に入られ、廟堂の上にしまっておいでになるとか。この亀は死んで骨をのこし、人に拝まれたのか、それとも生きてきたまま、しっぽを泥の中にひきずっていったのかな」二人の臣下は答えた。「それは生きていて、泥の中にしっぽをひきずっていたかかったでしょう」。荘子は言った。「それじゃ、お帰り！ わたしも泥の中にしっぽをひきずっているでしょう」(『荘子』秋水)



「パンを手に入れることはもとより大事だが、その美味しさを楽しむことはもっと大事だ」  
比較文化学者であるチーグアン・ジャオ氏が、身近な例から老子の人生哲学をわかりやすく解説した一冊。「よりよい老後」のために心身ともに無理を重ねる現代人に向け、老子の教えをもとに、肩の力を抜いて自然に生きることが勧められる。  
2016年4月、日本橋報社刊